

赤色防虫ネットの開発経緯とキャベツの
ネギアザミウマに対する防除効果

神奈川県農業技術センター おおや 大矢 武志・太田 和宏*・植草 秀敏**
日本ワイドクロス株式会社 あべ 阿部 弘文・廣橋 ひろはし 寿祥

はじめに

ネギアザミウマ (*Onion thrips, Thrips tabaci* Lindeman (Thysanoptera: Thripidae)) はアザミウマ目 (Thysanoptera) に属する微小昆虫で、体長は 1.5 mm 程度ととても小さく、ネギなどのヒガンバナ科、トマトなどのナス科、キャベツなどのアブラナ科の野菜類や、花き類、ナシ、カキなどの果樹類なども食害し、広範囲な作目に被害を与える (DIAZ-MOMTAMO et al., 2011; SHELTON et al., 2014)。また、年に 10 世代以上繰り返すなど増殖率が高いため、農薬に対する抵抗性を発達させやすいこと (西森ら, 2003; DIAZ-MOMTAMO et al., 2011)、さらにはネギ類やトルコギキョウにえそ斑点などの病斑を示すアイリスイエロースポットウイルス (*Iris yellow spot orthospovirus*,

IYSV) を媒介すること (植草, 2006; DIAZ-MOMTAMO et al., 2011) が知られている。さらに近年、以前から日本に広く分布していた単為生殖で雌成虫のみが増殖する「産雌単為生殖系統」とは異なる、海外から侵入したと考えられる「産雄単為生殖系統」が分布を広げている (村井, 2003) など、現在、最も防除が難しい害虫の一つにあげられている。また、神奈川県内の現地 (農家) からは、10 年ほど前から、キャベツ育苗期間中にネギアザミウマによる甚大な食害被害が発生しているとの報告があり (図-1)、その防除に非常に苦慮している実態がある。

チョウやミツバチ等を除き、一般に昆虫が認識できる光の領域は紫外線からオレンジ色の範囲 (380~620 nm) で、人が認識できる赤色領域 (620 nm~) を昆虫は認識できないとされており (図-2) (BICKFORD et al., 1964),



図-1 ネギアザミウマのキャベツでの寄生と食害痕
写真左：ネギアザミウマの食害を受けると葉の表面がカルス化し、かすり状の痕が残る。
写真右：拡大するとネギアザミウマ幼虫の寄生が多数確認できる。

Development History of Red Insect Screen and Its Effect to Control *Thrips tabaci* (Thysanoptera: Thripidae) on Cabbage. By Takeshi OHYA, Kazuhiro OHTA, Hidetoshi UEKUSA, Hirofumi ABE and Hisayoshi HIROHASHI

(キーワード：赤色防虫ネット、ネギアザミウマ、ネット目合い)

*現所属：神奈川県庁政策局政策部総合政策課

**現所属：全国農業協同組合・全国農業安全指導者協議会